数字で見ると一目瞭然。意外と知らない **猫統計**

井上 舞 / アニコム ホールディングス㈱

vol.❶

猫が来院するとき

小動物臨床における疾患統計の詳細については → アニコム家庭どうぶつ白書 http://www.anicom-page.com/hakusho/ を参照ください。

アニコム損保に契約した0歳の猫のうち、スコティッシュ・フォールドが占める割合

20.8%

2012年に人気だった猫の品種ランキングでは、折れた耳が特徴的な「スコティッシュ・フォールド」が1位となった（表1）。同品種は、2009年以来、4年連続1位の人気となっている。「アメリカン・ショートヘア」も2011年同様、2位となっており、これら2品種の人気が定着しているようだ。

また、「マンチカン」が昨年の5位から4位へ順位をあげた。短い足が特徴で、2011年にランキング圏外から5位にランクインした人気上昇中の品種で、独特のかわいらしい外見と、好奇心旺盛で陽気な性格、人によく懐くことなどが人気につながったと考えられる。TOP10にランクインしている「ノルウェージャン・フォレスト・キャット」や「メイン・クーン」も、人懐こくあまり鳴かない性格と言われており、「人に懐く」と言われる品種が人気を集める傾向がみられた。

表1 2012年の猫の人気品種ランキング

順位（カッコ内は2011年順位）	品種名	頭数	割合（%）
1（1）	スコティッシュ・フォールド	1,946	20.9
2（2）	アメリカン・ショートヘア	1,302	14.0
3（3）	混血猫	1,021	10.9
4（5）	マンチカン	652	7.0
5（4）	ロシアンブルー	625	6.7
6（7）	ノルウェージャン・フォレスト・キャット	499	5.3
7（6）	ペルシャ（チンチラ）	418	4.5
8（8）	メイン・クーン	407	4.4
9（9）	ラグドール	361	3.9
10（12）	日本猫	346	3.7

2011年の1年間で猫にかけられた飼育費用

184,735円

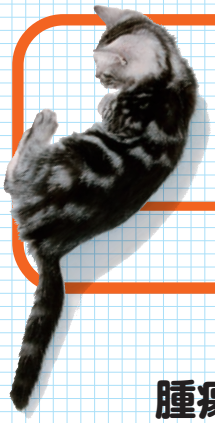
2011年の1年間にペットにかけた費用は、猫が前年比113.4%、犬102.6%となり、若干の増加傾向がみられた（表2）。「病気やケガの治療費」は、猫で対前年110.2%と増加しており、「高齢になり通院が増えたため」「以前から罹っていた腎不全・尿石症が悪化したため」など、加齢を理由にあげた回答が多く、ペットの高齢化を反映する結果となった。また同様に、犬でも治療費が対前年131.7%ともっとも増加がみられ、加齢に伴う理由のほか、「震災のストレスで皮膚やお腹が敏感になった」などがあげられた。「日用品」「洋服」にかける費用は猫、犬ともに増加。「節電対策でクールマットやベッドを購入した」「寒さ対策で洋服を購入した」など、2011年の世相を反映する結果となった。

東日本大震災の影響で防災用品を購入したという回答者も多く、ペット用の避難袋、キャリーケース、簡易トイレ、備蓄用フード、家具の固定用品、サークルの補強材などに費用を使ったというコメントが寄せられた。

表2 2011年にペットにかけた年間の飼育費用

項目	猫 2010年（円）	猫 2011年（円）	猫 前年比（%）	犬 2010年（円）	犬 2011年（円）	犬 前年比（%）
病気やケガの治療費	45,216	49,846	110.2	47,743	62,872	131.7
フード・おやつ	36,893	36,258	98.3	49,585	44,061	88.9
ペット保険料	24,236	28,240	116.5	31,765	33,722	106.2
シャンプー・カット・トリミング料	6,181	6,429	104.0	34,301	32,724	95.4
ワクチン・健康診断などの予防費	12,664	12,010	94.8	26,522	26,070	98.3
ペットホテル・ペットシッター	13,464	18,292	135.9	22,736	20,886	91.9
防災用品	—	6,000	—	—	18,642	—
日用品	17,362	20,316	117.0	17,183	17,393	101.2
洋服	4,011	4,057	101.1	14,670	15,337	104.5
首輪・リード	2,847	3,287	115.5	7,441	7,270	97.7
しつけ・トレーニング料・ドッグランなど	—	—	—	65,654	46,890	71.4
合計（円）	162,874	184,735	113.4	317,600	325,867	102.6
回答数	388	357	—	2,569	2,076	—
どうぶつの平均年齢	4.8	4.7	—	4.3	4.3	—

＊表1：2011年2月1日～2012年1月31日にアニコム損保の「どうぶつ健保」に新規契約した0歳の猫9,330頭の品種を集計
＊表2：アニコム損保のペット保険「どうぶつ健保」の契約者に対し、2011年1月1日～12月31日（2011年分）および2010年1月1日～12月31日（2010年分）の各1年間に、ペット1頭へ支出した費用について、インターネット上でアンケートを実施（2011年分調査：有効回答数2,530、2010年分調査：有効回答数3,085）



数字で見ると一目瞭然。意外と知らない **猫統計**

井上 舞 / アニコム ホールディングス㈱

vol.❷

高齢猫と腫瘍疾患

小動物臨床における疾患統計の詳細については → アニコム家庭どうぶつ白書 http://www.anicom-page.com/hakusho/ を参照ください。

腫瘍疾患に注意したい猫の年齢

4歳

猫の腫瘍疾患を年齢別にみると、4歳齢以降で加齢とともに顕著に上昇がみられ、7歳齢では2.7%、10歳齢では5.3%まで上昇していた（図2）。4歳齢以降急激に罹患率が上昇しており、どの年齢であっても健康診断は推奨されるが、腫瘍疾患についてはとくに4〜5歳齢ころからの健康診断の推奨で、早期発見を目指すべき疾患と考えられる。

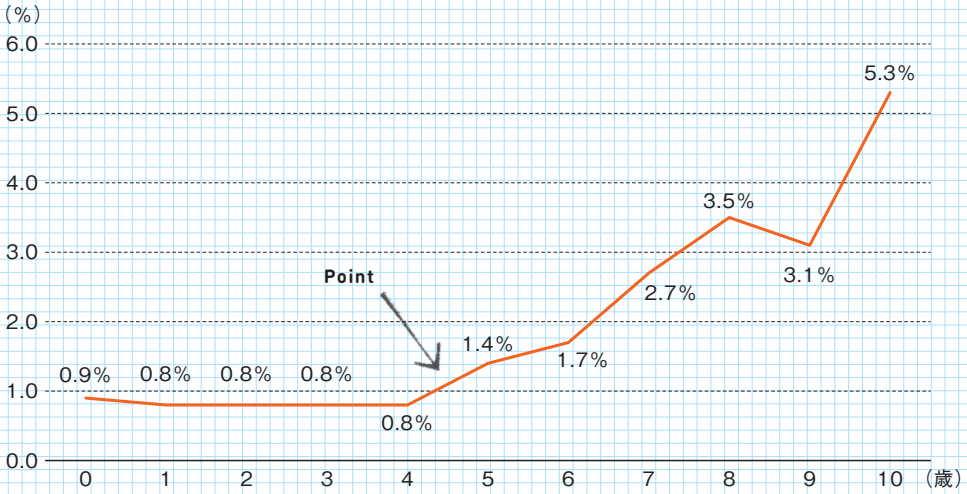


図1 猫の腫瘍疾患の罹患率　年齢推移

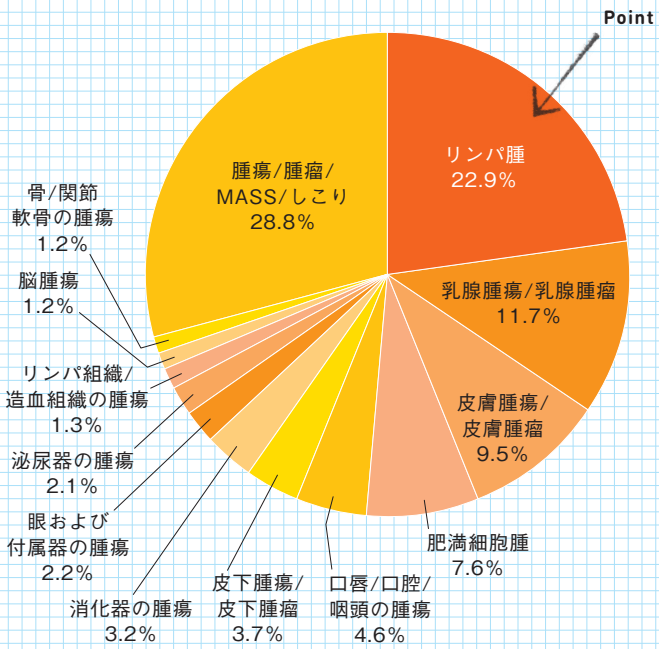


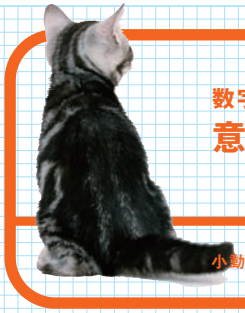
図2 猫の腫瘍疾患の内訳

猫の腫瘍疾患に占めるリンパ腫の割合

22.9%

猫の腫瘍疾患で請求のあった1,842件の内訳をみると、もっとも多かったのはリンパ腫で全体の22.9%であった（図2）。次に多かったのは、乳腺腫瘍/乳腺腫瘤の11.7%であった。猫の腫瘍においては第4位までで全体の約半数を占めていた。第2〜3位までの腫瘍（皮膚腫瘍/皮膚腫瘤、肥満細胞腫）はいずれも皮膚・体表に発生することの多い腫瘍であり、飼い主にはとくに日ごろから全身をくまなく触り、しこりの有無などをチェックするよう伝えていただきたいと思う。

＊図1：2009年4月1日〜2010年3月31日までの間に契約を開始した0〜10歳の猫（24,081頭）を対象に集計
＊図2：2009年4月1日〜2010年3月31日までの間に契約を開始した猫の腫瘍疾患での請求1,842件の内訳を示した



数字で見ると一目瞭然。意外と知らない **猫統計**

井上 舞 / アニコム ホールディングス㈱

vol.❸ 猫の循環器疾患

小動物臨床における疾患統計の詳細については → アニコム家庭どうぶつ白書 http://www.anicom-page.com/hakusho/ を参照ください。

猫の循環器疾患に占める心筋症の割合

38.4%

猫の循環器疾患における請求2,159件の内訳をみると、もっとも多かったのは心筋症で全体の38.4%だった（図1）。犬でもっとも多くみられた疾患は弁膜症（僧房弁閉鎖不全症を含む）で、その割合は40.5%（アニコム家庭どうぶつ白書、2011）であったが、猫では3.4%にとどまった。

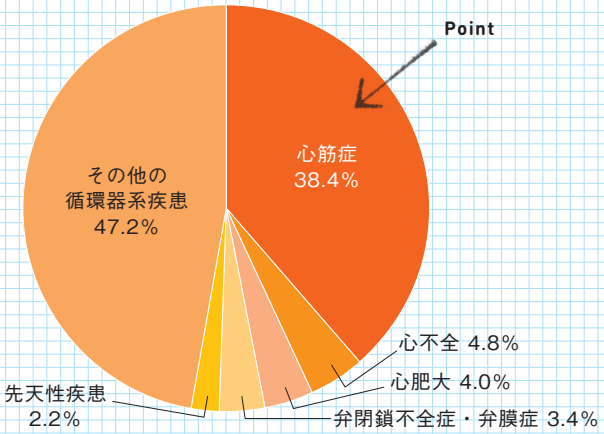


図1 猫の循環器疾患の内訳

10歳の猫が心筋症に罹患する割合

1.7%

猫の心筋症を詳しくみると、加齢とともに罹患率が上昇しており、0歳齢での罹患率は0.3%であったが、10歳齢では1.7%であった。腎臓病や腫瘍疾患では罹患率の上昇がシニア期に急激にみられていたが（腎臓病についてはFelis Vol.01、10ページ参照）、心筋症の罹患率は、1歳齢以降直線的に上昇している点が特徴的である（図2）。

また、年間の診療費（保険金支払金額より推定）および平均通院日数を調査したところ（表1、2）、全疾患の平均に比べて約2倍となった。ちなみに、犬でも同様の傾向がみられた。

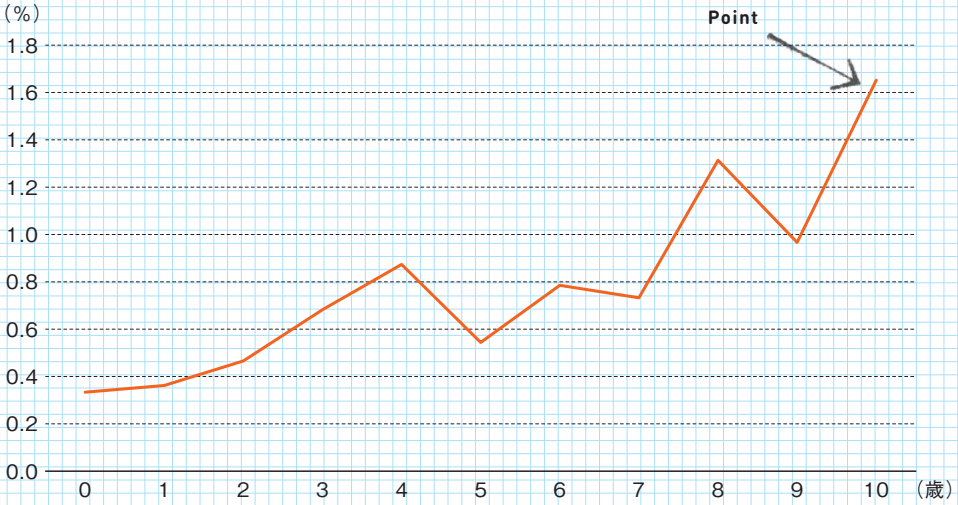


図2 猫の心筋症の罹患率　年齢推移

表1 猫の心筋症の診療費と通院日数

	年間診療費（円）	平均通院日数
心筋症	52,264	4.9
全疾患の平均	22,351	2.5

表2 （参考）犬の心筋症の診療費と通院日数

	年間診療費（円）	平均通院日数
心筋症	61,233	4.8
全疾患の平均	20,271	2.3

＊図1：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した猫の循環器疾患での請求2,159件の内訳を示した
＊図2、表1：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した0～10歳の猫（24,081頭）を対象に集計
＊表2：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した0～10歳の犬（252,414頭）を対象に集計

数字で見ると一目瞭然。意外と知らない **猫統計**

井上 舞 / アニコム ホールディングス㈱

vol.4

猫の医療費

小動物臨床における疾患統計の詳細については → アニコム家庭どうぶつ白書 http://www.anicom-page.com/hakusho/ を参照ください。

表1 猫の請求理由TOP30

順位		順位	
1	腎不全	16	猫伝染性腹膜炎・FIP
2	膀胱炎	17	猫伝染性鼻気管炎・FVR
3	胃腸炎	18	口内炎/舌炎
4	外耳炎・外耳道炎	19	猫の下部尿路疾患・FUS・FLUTD
5	軟便/下痢/血便	20	肝炎
6	膀胱結石・尿石症	21	食欲不振
7	皮膚炎	22	歯周病（歯肉炎/歯槽膿漏/歯垢/歯石含む）
8	結膜炎/結膜浮腫	23	リンパ腫
9	嘔吐	24	肝機能不全
10	糖尿病	25	気管炎/気管支炎
11	外傷（挫傷/擦過傷含む）	26	大腸炎
12	心筋症	27	腫瘍/腫瘤/MASS/しこり
13	アレルギー性皮膚炎	28	てんかん
14	便秘	29	甲状腺機能亢進症
15	鼻炎/副鼻腔炎	30	膿皮症

猫の医療費で一番多い腎不全で請求される割合

7.6%

猫の請求理由を傷病別に調査してみると、もっとも多かった請求は「腎不全」で、全体の7.6%を占めていた。請求件数が多いということは、罹患率が高く罹患頭数が多い疾患であることと、難治性であり通院回数が増加することが影響していると考えられる。

猫の手術に占める歯周病の割合

19.0%

2009年にアニコム損保「どうぶつ健保」の契約を開始した24,081頭の猫では、手術での請求が730件あった。そのうち、もっとも請求理由として多かったのは歯周病・口内炎を治療する目的での手術で、全体の約2割を占めていた（図1）。2番目に多かったのは腫瘍疾患であり大分類「腫瘍疾患」で合計すると、もっとも高い割合を占める疾患でもあった。また、4番目の乳腺腫瘍は、早期の避妊手術によって発症率に差が出たという報告*もあり、飼い主への十分な啓発を行い、予防につなげることが重要だと考えられた。

*Overley B., JVIM, 2005

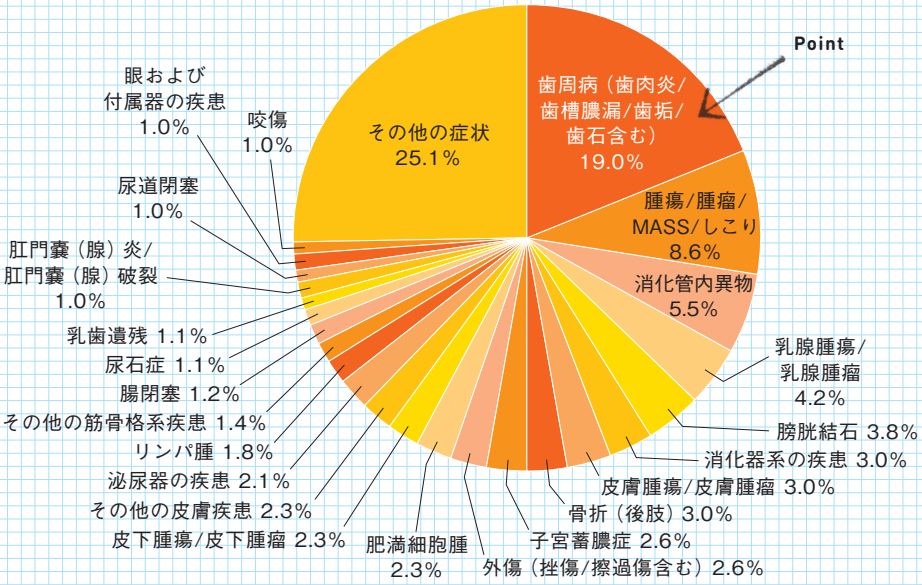


図1 猫の手術の請求内訳

＊表1：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した猫の請求（55,631件）でもっとも多かった疾患上位30を示した

＊図1：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した猫の手術請求（730件）の内訳を示した

数字で見ると一目瞭然。意外と知らない **猫統計**

井上 舞 / アニコム ホールディングス㈱

vol.5

高齢猫と糖尿病

小動物臨床における疾患統計の詳細については → アニコム家庭どうぶつ白書 http://www.anicom-page.com/hakusho/ を参照ください。

猫の内分泌疾患に占める糖尿病の割合

61.9%

猫の内分泌疾患で請求のあった1,657件の内訳をみると、もっとも多かったのは糖尿病で全体の61.9%だった（図1）。次に多かったのは、甲状腺機能亢進症の17.0%であり、上位2疾患で全体の約8割を占めていた。

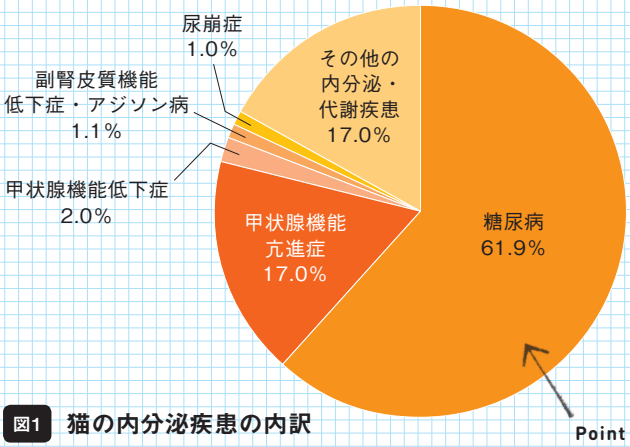


図1 猫の内分泌疾患の内訳

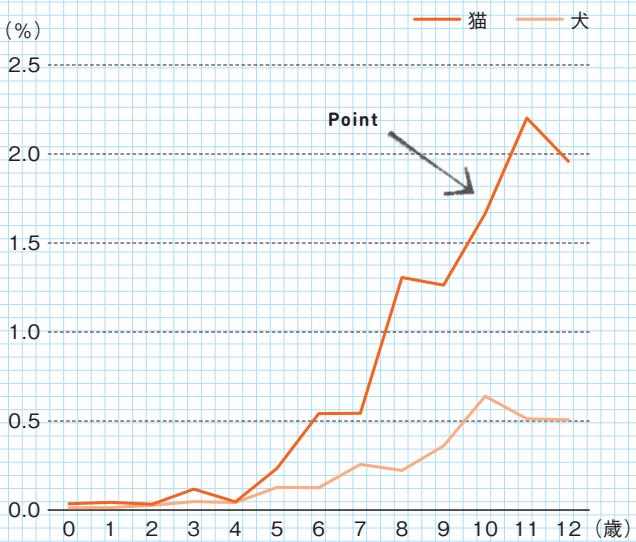


図2 猫と犬の糖尿病の罹患率　年齢推移

10歳齢の猫が糖尿病に罹患する割合

1.7%

猫の糖尿病を詳しくみると、加齢とともに罹患率が増加しているが、とくに5歳齢以降で目立った上昇がみられ、10歳齢では1.7%、12歳齢では2.0%まで上昇していた（図2）。犬においても同様に加齢に伴う上昇がみられたが、罹患率自体は猫のほうが高く、すべての年齢で猫は犬の2倍以上の罹患率を示していた。

また、犬ではほとんど性差がみられなかったのに対して（図4）、猫では性差がみられ、雄が糖尿病に罹患した猫の2/3を占めていた（図3）。猫の糖尿病では肥満が危険因子と言われており、去勢雄の肥満が影響していることがその要因の1つとして考えられた。

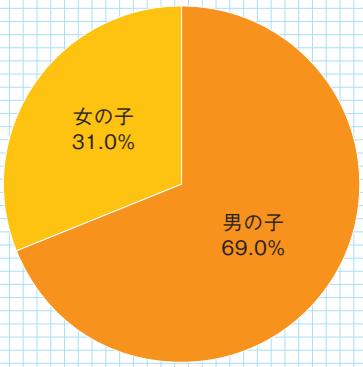


図3 猫の糖尿病　発症頭数割合

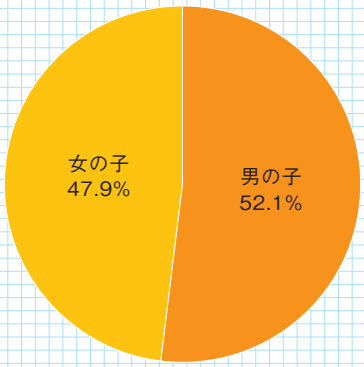


図4 犬の糖尿病　発症頭数割合

＊図1：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した猫の内分泌疾患での請求1,657件の内訳を示した
＊図2、3：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した0～10歳の猫（24,081頭）を対象に集計
＊図4：2009年4月1日～2010年3月31日までの間に契約を開始した0～10歳の犬（252,414頭）を対象に集計